

FUKUOKA



「世界にはばたき未来を切り拓け倉工健児」
(福岡県立小倉工業高等学校)



授業(保健体育)



体育大会(応援合戦)



海外修学旅行(台湾)



ものづくりコンテスト

CONTENTS

教育の広場

これからの学校体育に求められること
立命館大学スポーツ健康科学部 教授 大友 智 …… 1

特集

○令和元年度福岡県教育文化表彰 [総務企画課] …… 3

○令和元年度第27回福岡県高校生産業教育フェア報告 [福岡県立八女農業高等学校] …… 6

○「運動」を通じた鍛ほめプロジェクト [体育スポーツ健康課・福岡県体育研究所] …… 8

○令和元年度福岡県教育委員会が実施した文化芸術事業について [社会教育課] …… 10

学びの現場から

これからの理科教育がめざすもの [小郡市立小郡中学校 教諭 福田 勝則] …… 12

ふくおか教育マイスター (令和元年、2年度) [福岡県立宗像高等学校 教諭 羽生 禎伸] …… 13

県立学校の特色ある取組

「自分の人生を何に使うか」探求するドリカムプラン [福岡県立城南高等学校] …… 14

平成29・30・令和元年度福岡県重点課題研究指定・委嘱事業研究報告

○主体的によりよい生活を創り出す子供を育てる特別活動の推進 [義務教育課] …… 16

○ICTを効果的に活用した授業改善 [義務教育課] …… 18

○実生活や実社会で実践する力を育成する「健康教育」 [体育スポーツ健康課] …… 20

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要について

[体育スポーツ健康課] …… 21

教育施設からの事業だより

令和元年度福岡県体育研究所 取組について [福岡県体育研究所] …… 23

令和2年度 福岡県学習センター/福岡県青少年科学館 [福岡県教育センター] …… 25

お知らせ

体育スポーツ健康課/教職員課/九州歴史資料館 …… 27

放送大学福岡学習センター/福岡県青少年科学館 …… 27

九州歴史資料館 展示品 名選No. 42 [九州歴史資料館]

「教育福岡」はホームページ上で
見ることができます。

福岡県

検索

教育委員会>総務企画課>「教育福岡」をクリック

<九州ロゴマーク>

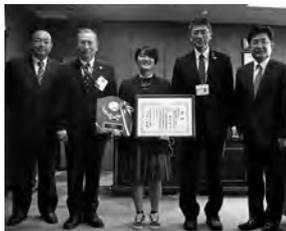
「九州の連携」を象徴し、
「九州はひとつ」を表現
しています。



KYUSHU

12/5 八女農業高等学校教育長表敬訪問

八女農業高校の野中^{のなか}青空^{あそら}さんが、10月23日（水）福島県立福島明成高等学校（福島県福島市）で開催された第70回日本学校農業クラブ全国大会の農業鑑定競技会「畜産」で最優秀賞を受賞したことを報告するため、城戸教育長を表敬訪問しました。



12/16 水産高等学校海洋科2年生教育長表敬訪問

海洋科2年生の代表生徒が9月18日（水）から11月11日（月）まで55日間、ハワイ周辺海域でのマグロ延縄漁業実習をはじめとする長期航海実習から帰還したことを報告するため、城戸教育長を表敬訪問しました。

生徒からは、海友丸の航路や実習内容、船内生活について、報告が行われました。



1/30 第1回福岡県教育振興審議会

福岡県教育振興審議会は、今後の社会の変化を見据え、学校教育及び社会教育における新たな課題に対応していくため、本年度新たに設置された教育委員会の附属機関です。

博多サンヒルズホテルにおいて、第1回会議が開催され、福岡県学校教育振興プランの改訂に向けて活発な議論がなされました。



2/3 苅田工業高等学校教育長表敬訪問

マイクロコンピュータを搭載したロボットがコースを走行したタイムを競う、ジャパンマイコンカーラリー 2020 全国大会（1月11日～12日、西日本総合展示場）において、苅田工業高校がベーシッククラスにおいて優勝したことを報告するため、城戸^{はやしはると}教育長を表敬訪問しました。

また、受賞内容について林春斗さんが説明しました。



今月の表紙「元気いっぱい子どもたち」

「世界にはばたき未来を切り拓け倉工健児」 福岡県立小倉工業高等学校

福岡県立小倉工業高等学校は、令和元年に創立120周年を迎えました。国際技能競技大会での金メダリストを4名輩出するなどの実績を残しており、校訓「真理探究」「質実剛健」「勤労努力」のもと、「ものづくり」への夢と使命感をもった、次代を担う工業技術者を育成しています。

本校では各学科の専門性をより生かすため「得意技コース制」を導入し、各種資格の取得を進めるなど、生徒の進路実現に向けて充実した工業専門の学習を行っています。

また、グローバル化の進展に対応できる人材育成のための基礎を築く海外修学旅行や、規律正しい集団演技、勇壮な応援合戦が行われる体育大会などの学校行事は保護者・地域からも好評を博しています。

甲子園春夏通算17回出場の野球部をはじめとして、多くの運動部、文化部が県大会や九州大会そして全国大会へ出場しています。日々の教育活動において、生徒と職員が一丸で日本一の工業高校を目指します。

これからの学校体育に求められること

立命館大学スポーツ健康科学部
教授 大友 智



デン・スポーツイヤーズ、である。

本稿では、これからの学校体育に求められることについて、これらの華々しいスポーツイベントから考えてみたい。

2 ワン・チーム

2019年開催のラグビーワールドカップは、まさに、ワン・チーム(ONETEAM)であった。

ラグビー日本代表チーム：ブレイブ・ブロッサムズ(チームの愛称：勇敢な桜の戦士という意味)の選手も、各国の選手も輝いて見えた。がっちりとしたスクラム、スクラムホームからの華麗な球出し、バックスの鮮やかなラン、そして、トライ！

ベスト8にまで勝ち上がったブレイブ・ブロッサムズを見ると、誇らしく思う。このような思いを抱いたのは、私だけではなく、きっと、多くの方がそう感じたに違いない。だが、その思いは、「勝ったから」

だけではない。彼らは、試合に出場しない人等チームの全てのメンバーと協力し、自分のベストを尽くし、相手チーム・相手選手をリスペクトし、「ずる」をしないで公正にプレーし、審判に従い、ルールを遵守して試合を行った。選手個々の高潔さ、が人の心を動かした。

どんなスポーツにおいても、それらのスポーツをする人、見る人、支える人には、このような人間性溢れる態度、高潔さ、を発揮することが求められる。子ども達は、そんな人間に育って欲しい。

そんな態度を獲得できる教材が、「体育」である。

3 組市松紋

野老朝雄(ところあさお)。東京2020エンブレムの制作者である。彼は、3つの異なる四角形から成る組市松紋(くみいちまつもん)、市松模様のチェッカーデザインによる東京オリンピック・パラリンピックのロゴマークを製作した。

東京2020エンブレムコンセプトムービーの動画ナレーションは、以下の様に語っている。

3つの異なる四角形は、多様性を表しています。みんなちがうから、おもしろい。みんなちがうけれど、つながれる。互いに認め合い、支え合いながら、ひとつになる時がやって来ます。同じ形、同じ数の四角形でつくられるふたつのエンブレム。そ

れは、すべてが平等である証。障がいの有無を越えて、あらゆる障壁を越えて、人と人がつながってゆきます。

スポーツの感動は、スポーツの興奮は、世界中誰もが共有できる。世界中みんなをひとつにする。

新しい未来は、きつと、ここから生まれます。

(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会HPより引用)

人間は、一人一人違っている。例えば、男性と女性、障がいの有無、スポーツの得意不得意、運動の好きな人嫌いな人。でも、どんな人とても、仲良く運動する力を付けて欲しい。その先に、誰とでも仲良くし、複雑な問題に立ち向かう力、そんな力に繋がるはずだ。そんな力は、子ども達が社会に出たときに、必ず役に立つ。そんな力を獲得できる教科が、「体育」である。

4 さあ、いい歳して、いい顔しよう

これは、「概ね30歳以上であれば誰もが参加できる国際的スポーツ祭典『ワールドマスターズゲームズ』」のキャッチフレーズである。他に、この大会を、

2021年 参加して楽しもう。世界とつながろう。関西の魅力を世界にひろげよう。

みんなが参加できる世界最大級のスポーツ祭！

等のフレーズが演出する。

4年に一度の世界大会である。

だが、大会参加申込方法には、以下の記載が見られる。

「競技出場者申込（エントリー）受付に関しては、競技種目内の種別毎に先着順で、募集枠の上限に達した時点で締切ります。」

驚きませんか。スポーツの世界大会への参加が、「先着順」である

こと！

スポーツによる交流、年齢に関係のないスポーツへの参加、まさに、生涯スポーツである。

子ども達には、運動やスポーツが大好きになって、こんなスポーツ大会に、積極的に関わり、参加し、自分の人生を豊かに生きて欲しい。

そんな育ちを保障する教科が、「体育」である。

5 体育指導の取り組みのポイント・意識すべき点

以下では、上記以外で、新学習指導要領を踏まえて、これからの学校体育に求められることを、簡潔に記載する。

【小学校の体育】

①運動のやり方を教えること

②練習方法を2つ以上提示し、子ども達が選べるようにすること

【中・高校の体育】

全ての生徒が自分の課題を発見するためのツールを開発すること

【小・中・高校の体育】

①当該学年で指導が求められている運動技能をきちんと確認すること

②子ども達自身が考えたこと、感じたこと等を友達や他者に話す

活動場面を設定すること

③男女共習を導入すること

④個人差の吸収可能な授業を計画し、実施すること

⑤体力向上は、子ども達の運動に対する好意度を向上させながら行うこと

「体育」は、子ども達の学びに向かう力、人間性の涵養を図るために、具体的な内容を設定できる唯一の教科である。学びに向かう力の獲得、人間性の涵養を実現できるように、体育指導の充実を図りたい。

令和元年度福岡県教育文化表彰

総務企画課

福岡県教育委員会では、本県における教育、学術、文化及びスポーツの振興に貢献し、その功績が特に顕著と認められる個人、団体及び学校その他の教育機関について業績を表彰し、本県教育の振興に資することを目的として、「教育文化表彰」を実施しています。

今年度は、個人78件、団体28件、総数106件の推薦から、厳正な選考の結果、個人39件、団体23件、計62件の受賞を決定しました。（受賞者・団体名は次ページのとおり。）

表彰式は2月15日（土）に福岡リーセントホテルで行い、受賞者には表彰状と記念品を贈呈しました。

受賞者を代表して福岡県立八女工業高等学校電子機械研究部部長の石橋葵さんが「競技ロボットの製作は、非常に幅広い知識と柔軟な発想力やアイデア、そしてそれを形にする確かな技術力・技能力など、総合的なものづくりの能力が要求されるものであり、私たちは部員全員で力を合わせ試行錯誤してロボットを完成させました。本日の

受賞は私たちの日々の努力の結果と讃えてくださる方も多々いらっしゃいますが、何よりも先生方や家族をはじめとする周りの方々の支えがあったからこそであると思っています。私たち一同を支えてくださった方々に心から感謝しています。」と述べました。



受賞者代表挨拶

表彰件数の内訳

部門・分野		個人	団体	計
児童生徒の部		14	15	29
一般の部		25	8	33
一般の部 内訳	社会教育部門	3	7	
	学術・文化部門	2		
	体育・スポーツ部門	3		
	学校保育部門	9		
	教育行政部門 学校教育部門	1 7	1	
計		39	23	62

ここでは、特色ある受賞者の功績概要を紹介いたします。

○「児童生徒の部」(個人)

・粕屋町立粕屋中央小学校 5年

清武 琳(きよたけ りん)

第10回「いっしょに読もう!新聞コンクール」小学生部門において最優秀賞を受賞している。

○「児童生徒の部」(個人)

・福岡高等学校 3年

自見 壮二郎(じみ そうじろう)

小倉百人一首競技かるた第40回全国高等学校選手権大会個人戦A級(四段以上)の部及び小倉百人一首競技かるた第41回全国高等学校選手権大会個人戦A級(四段以上)の部において優勝している(2連覇)。

○「児童生徒の部」(個人)

・福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校

3年 矢ヶ部 紋可(やかべ あやか)

2年 鎌田 真衣(かまた まい)

第2回世界デフユースバドミントン選手権大会女子ダブルスにおいて優勝している。

○「児童生徒の部」(団体)

・福岡県立八女工業高等学校電子機械研究部

第27回全国高等学校ロボット競技大会において福岡県立の工業高校で初めて優勝している。

○「児童生徒の部」(団体)

・明光学園高等学校ハンドボール部

平成30年度第42回全国高等学校ハンドボール選抜大会及び令和元年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会高松宮記念杯第70回全日本高等学校ハンドボール選手権大会女子の部において優勝している。



教育長挨拶

令和元年度福岡県教育文化表彰名簿

●児童生徒の部

△個人

粕屋町立粕屋中央小学校

春日市立春日東小学校

福岡教育大学附属福岡中学校

福岡県立福岡高等学校

福岡市立博多工業高等学校(卒業生)

福岡県立八女農業高等学校

福岡市立元岡小学校

福岡市立百道浜小学校

清武 琳

宮本 紗帆

宇野 誠洋

自見 壮二郎

中原 未裕

野中 青空

田中 陽大

辻 七海

福岡市立那珂中学校

福岡県立青豊高等学校

博多高等学校

博多女子高等学校

福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校

福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校

福岡市立伊田中学校放送部

福岡市立城南中学校吹奏楽部

福岡県立三井高等学校家庭クラブ

△団体

福岡県立八女工業高等学校電子機械研究部

北九州市立浅川中学校野球部

福岡県立玄界高等学校フェンシング部

福岡県立青豊高等学校ダンス部

中村学園女子高等学校剣道部

福岡工業大学附属城東高等学校ダンス部

福岡第一高等学校男子剣道部

福岡第一高等学校男子バスケットボール部

明光学園高等学校ハンドボール部

柳川高等学校ダンス部

ゴールデンハーツバトンチーム

福岡如水館

垂水 爽空

伊藤 彩香

白濱 春花

西川 美朝

矢ヶ部 紋可

鎌田 真衣

●一般の部

○社会教育部門

△個人

嘉麻市図書ボランティアサークルにゃぐこ 会員

野見山 靖子

福岡県公立高等学校PTA連合会 前会長

三根 広次

福岡県社会教育委員の会議前社会教育委員

武藤 元美

△団体

春日市立春日西小学校父母教師会

福岡市立賀茂小学校PTA

朝倉市立大福小学校父母教師会

北九州市立花尾小学校PTA

福岡県立戸畑高等学校PTA

貴賓館ボランティア

布っ子

○学術・文化部門

△個人

福岡県文化財保護審議会 委員 木村 法光

嘉麻市文化財保護審議会 副会長

豊福 英之

○体育・スポーツ部門

△個人

福岡大学 教授 片峯 隆

福岡大学 4年 竹野 比奈

福岡県立八幡中央高等学校 教諭 守 昌宏

○学校保健部門

△個人

公益社団法人北九州市医師会 学校医

濱之上 隆史

一般社団法人福岡市医師会 学校医

古川 洸

一般社団法人大川三瀧医師会 学校医

松本 英則

一般社団法人門司歯科医師会 元学校歯科医

白石 悦郎

一般社団法人大川三瀧歯科医師会 学校歯科医

中島 泰之

福岡市学校歯科医会 学校歯科医

山本 和己

一般社団法人福岡市薬剤師会 学校薬剤師

下瀬 和俊

一般社団法人若松薬剤師会 学校薬剤師

高橋 雅治

一般社団法人門司薬剤師会 学校薬剤師

本間 司郎

○教育行政部門

△個人

糸島市教育委員会 元委員長 徳田 敬

○学校教育部門

△個人

大木町立大溝小学校 前校長 田島 太

築上町立八津田小学校 前校長 千原 新吾

春日市立春日小学校 前校長 丸山 晴幹

福岡県立筑紫中央高等学校 校長 江口 也文

福岡県立鞍手高等学校 校長 清澤 亨

福岡県立城南高等学校 校長 和田 美千代

福岡県立特別支援学校

「福岡高等学園」 校長 堀内 孝一

△団体

福岡県立鞍手高等学校



全体記念写真



表彰状授与

特集

令和元年度第27回福岡県高校生産業教育フェア報告 福岡県立八女農業高等学校



はじめに

10月25日(金)、26日(土)の2日間にかけて、令和元年度第27回福岡県高校生産業教育フェアが、久留米市の福岡県青少年科学館で開催されました。この取組は、専門高校等における日頃の学習成果を発表し、生徒の学習意欲の向上や産業教育の活性化を図るとともに、地域社会に対して的確な情報等を提供し、有為な産業人材の育成に資することを目的に行っています。

1 本年度のテーマ募集

本フェアに向けた生徒たちのアイデアを採用し、広報活動等を行いました。

(1) キャッチフレーズ部門

福岡県立小倉商業高等学校

藤倉 大樹 さん

新しい時代の幕開けだ、
産業教育で新たな未来を切り開こう。

(2) ポスター・リーフレット原画部門

福岡県立香椎高等学校

杉本 亜祐見 さん



2 産業教育フェア

(1) 開会行事

開会式では、福岡県高校生産業教育フェア推進委員長(福岡県教育庁中島良博教育監)をはじめ多くの方に御挨拶をいただきました。また、生徒実行委員長である八女農業高校の栗原 平さんは緊張しながらも、堂々とした挨拶を行いました。開会式後、4校種(農業・工業・商業・総合)による生徒研究発表が行われました。



県立福岡工業高等学校
AIロボットの製作



開会式

(2) ステージ部門

特設ステージにおいて福岡農業高校と、福島高校によるファッションショーが行われました。また、学校PRは生徒によるプレゼンテーションやビデオを使って行われ、各学校の特色をアピールしていました。



県立福島高等学校
ファッションショー

(3) 体験部門

9校による12の体験が実施されました。

初日には、久留米市立犬塚小学校5年62名、大刀洗町立大刀洗小学校6年32名、5年26名計120名が、各ブースで高校生の指導のもと体験を行いました。また、スタンプラリーにも参加し、高校生手作りの景品を持ち帰りました。各体験では、高校生と楽しそうに交流する小学生の笑顔が印象的で、小学生に産業教育の魅力をも十分に体験してもらうことができました。

(4) 販売部門

販売ブースでは10校が自慢の商品や農作物等を販売しました。日頃の学習の成果が見られる品質の高い商品がそろい、さらに一般の市場価格より安いこともあり、ほとんどの学校で完売しました。



ポニー乗馬体験

(5) 展示部門

今年の展示は、各学校の体験コーナーや販売ブースの近くで行い、各学校の取組が一目で分かるようにしました。日頃の実習で製作した作品や、学校紹介パネルなどの展示を行いました。廊下や階段の壁に学校紹介パネルを展示し、来場者が移動の途中にパネルが見られるように工夫しました。各校の特色が表れ、見る人たちを引き付けるような内容でした。また、3階の展示ブースまでの動線に、スタンプラリーのスタンプを設置し、産業教育フェアを隔々まで楽しめるように工夫しました。多くの来場者が興味津々な様子で、展示物を見学されていました。

おわりに

本年度も、昨年引き続き福岡県青少年科学館を会場としたことで、本来の目的である産業教育のアピールをより充実した形で実施できました。会場は本フェアを楽しみにして来た子どもやその保護者で賑わっており、体験コーナーや販売ブース、ステージ企画などは大盛況でした。また、事前の打ち合わせ会議を当会場で実施することで、会議の前後に下見を兼ねて企画の調整や施設の担当者との打ち合わせがスムーズにできました。

広報活動については、県内の中学生向けのポスター・リーフレットを中学生進路相談事業時に配布しました。また、九州朝日放送、毎日新聞、西日本新聞より取材を受け、当日のテレビニュースで放送され、翌日の朝刊にも掲載されました。生徒は本フェアを通じて充実感や達成感を味わうとともに、来場者への対応や専門高校生同士の交流により積極性・行動力・コミュニケーション能力の重要性を直接肌で感じたようです。

次年度は北九州市地区での開催となりますが、各校種間の連携を深め、体験教室やステージ部門等の内容を検討することで、さらに充実した産業教育フェアを目指し、小・中学生や地域の方々に、専門高校の魅力を伝え、発信していきたいと思えます。

「運動」を通した鍛ほめプロジェクト

体育スポーツ健康課
福岡県体育研究所

はじめに
『運動』を通した鍛ほめプロジェクトとは、「鍛ほめ福岡メソッド」に基づいた運動の実践を通して、子どもの自尊心や、学ぶ意欲を高め、体力と学力の向上を目指

すことを目的とした実践研究です。平成29年度から令和元年度までの3年間で、研究協力校（県内の小学校6校）の対象学年の児童による運動プログラムの実践と、体力・学力・情意面の変容を調査・分



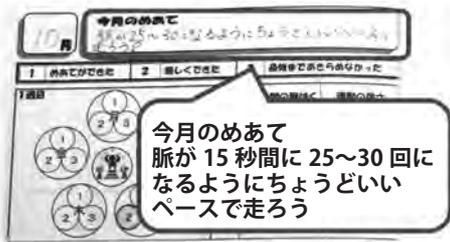
析します。今回は2年目までの内容を紹介
します。

1 事業の概要 「運動プログラムについて」

「鍛ほめ福岡メソッド」の考え方である「目標設定の活動」「挑む活動」「振り返る活動」の活動構成に運動を組み込み、「運動プログラム」として紹介します。それぞれの活動の実践内容を紹介します。

【目標設定の活動】

子どもは、鍛ほめノートに「めあて」を記入します。1年目は、1週ごとに、2年目からは1カ月ごとのめあてを記入していただきます。



鍛ほめノートを活用した目標設定例

【挑む活動】

本プロジェクトの「鍛える」とは、負荷の高いトレーニング的な運動を頑張らせるのではなく、「楽しみながら、運動を継続すること」に挑むことです。

『運動』を通した鍛ほめプロジェクト 事業構想の具体的取組について
体力向上（体力テスト平均点上昇）・学力向上（学力テスト平均点上昇）

週に3回以上、適度な強度（ニコニコペース）での運動に10分間挑みます。活動時間は、朝の会から1時間目の間、中休み等、研究協力校の実情に応じて設定しています。



スロージョギングと大縄跳びを組み合わせた運動

運動内容は運動生理学・心理学・学識者の専門とする学識者の協力を得て開発しました。1年目の運動内容は、子どもにも運動を習慣化させることをねらいとして、日常的に運動を実施していない子どもが「運動が苦手」や「運動はきつい」といった感情を持たないよう、優劣がつくような競争や、技術的な要素がない、スロージョギングにしました。

2年目からは、子どもが飽きないように、学校の希望に応じてスロージョギングだけでなく大縄跳びとスロージョギングを組み合わせた運動等も取り入れています。

【振り返る活動】子どもは、10分間の運動実施後、「めあて」を達成できたかについて、シールを貼ったり、色を塗ったりして振り返ります。

2年目からは、一人一人のニコニコ



運動後の脈拍計測

コペースで10分間の運動ができたかを振り返るため、運動後に脈拍を計測し、その日の脈拍数やどのくらい「きつさ」だったのかを鍛ほめノートに記録しています。また、運動の様子や自分の成長を振り返り、先生や保護者の方から称賛のコメントをもらうようにしています。

ニコニコペースの運動とは

RPE	きつさ	ペース
20		
19	非常にきつい	しかめっ面ペース
18	かなりきつい	☆
17	きつい	ガンバリペース
16		
15	ややきつい	ニコニコペース
14		
13	らくである	ニコニコペース
12		
11	かなりらくである	ニコニコペース
10		
9	非常にらくである	ニコニコペース
8		
7		
6		

たまたかうにげるホルモンがたたくさん

【疲れて長く続けられないペース】
息：ゼーゼー、ヒーヒー
心臓：バクバク
あたま：回転遅くなる
表情：ニコニコが少ない

【ずーっと続けられるペースの運動】
息：ハッハッ
心臓：ドキドキ
あたま：お話やクイズができる
笑顔：ニコニコたくさん

就実大学：森村 和浩 氏
資料より一部改変

ニコニコペースの説明資料

2 実践による子どもの変容

【情意面について】

自尊感情や学ぶ意欲といった情意面についての効果的な効果が表れたのかについては、福岡県教育委員会が作成した「児童生徒理解のための尺度調査ツール（SRT）」を用いて分析しています。SRT調査とは、子ども一人一人が持つ「自尊感情」「規範意識」「学ぶ意欲」等について、26の質問項目で測定するものです。プロジェクト開始時か

ら平成30年度までの分析では「自尊感情」の得点は、男子については6校中2校で、女子については5校で伸びました。「学ぶ意欲」は、男女ともに3校で、「規範意識」は、男子については5校で、女子については4校で伸びました。

【体力について】

毎年、各学校で実施している新体力テストの結果から、持久力（20mシャトルラン）に着目して分析されています。身長に応じて期待される20mシャトルランの記録を基準として分析した結果、運動プログラム開始前に測定した平成29年度は、協力校全体として男女ともに、基準値を下回っていたものの、平成30年度は基準値を超える結果となり、発育発達から期待された以上に持久力が伸びていました。

【その他】

研究協力校からの聞き取り調査では、子どもからは「目が覚めてスッキリする」「学習に集中できる」、また先生からは「子どもたちが意欲的に取り組むようになった」「粘り強くやろうとする力が付いてきた」等の感想や、「対象学年は他の学年に比べて欠席が少ない」といった報告もありました。

おわりに
3年間の研究の詳細をまとめた成果物として、リーフレットを作成し、今年度末に関係機関や学校に配布する予定です。

令和元年度福岡県教育委員会が実施した 文化芸術事業について

社会教育課

県教育委員会では、子どもの文化芸術普及のために、文化庁や本県の予算及び（公財）福岡県教育文化奨学財団の助成金で各種事業を実施しています。そこで、本年度実施した事業の一部を紹介いたします。

文化庁の事業

○文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）

〔趣旨〕文化庁が選定した文化芸術団体が、学校の体育館などでオーケストラや演劇等の巡回公演を行います。優れた舞台芸術を鑑賞するとともに、ワークショップを行い、本物の舞台芸術に身近に触れる機会を提供します。

〔実施報告（大任町立今任小学校）〕

劇団風の子九州によるワークショップを5月24日に、本公演を6月28日に行いました。ワークショップでは、4年生の児童14名が体験し、演劇の様々な体の動きや表情、台詞の言い方などを学びました。風を体の動きで表現するなど普段したことのない体験が、子どもたちの想像力を刺激し、表現することの面白さを味わうことにつながりました。

本公演では、全校児童が4年生の活躍を見守り、プロの表現や面白さを味わいました。演劇「やだ、やだ あっかんべー！」は、主人公が

自然とふれあう中で、成長していく物語でした。下学年は、本物の演劇を間近で楽しむことができ、上学年は、主人公に共感しながらストーリーを味わうことができました。特に4年生は、直接関わった芸術体験だったため、普段の学校生活の中でも恥ずかしくることが少なくなり、表現することを楽しむ姿が見られるようになりました。



本公演に参加する児童

○文化芸術による子供育成総合事業（芸術家の派遣事業）

〔趣旨〕個人又は少人数の芸術家を派遣し、講話、実技披露、実技指導を実施することにより、優れた芸術を鑑賞し、芸術への関心を高めます。

〔実施報告（筑紫野市立二日市東小学校）〕

9月3日、4日、俳優、演出家などの演劇に関する方で組織されているNPO法人PAVILICの方を招いて、6年生を対象に演劇的手法を用いた集団づくりや表現活動のワークショップ

プを行いました。

子ども達は、演出家のわたなべなおこ氏をはじめとする講師の方々から、演劇的手法による軽妙な指導を受け、ジャンケンゲームや仲間集めゲーム、そして二人組で一人がもう一人を手で動かすあやつりゲームを楽しく夢中になって行いました。ゲーム中は友達と笑い合ったり、褒め合ったりして心を解放しながら人間関係を深めることができました。振り返りでは、講師から活動の中でチームワークを活かした活動ができていたことを評価していただき、よかったところをみんなで褒め合うことができました。

担任の先生たちも、児童の積極性を引き出す講師の指導を目の当たりにして、大きな刺激を受けた貴重な体験でした。



ジャンケンゲームを行っている子どもたち

県及び(公財)福岡県教育文化奨学財団の事業

○特別支援学校芸術鑑賞事業

〔趣旨〕芸術文化に接する機会の少ない特別支援学校等の児童生徒に芸術鑑賞の機会を提供し、本県の芸術文化の振興に寄与します。

〔実施報告(久留米市立久留米特別支援学校)〕

11月19日、本校体育館にて小・中学生の子ども達を対象にY.ファクトリーによる「NIN JYA SAMURAI Entertainment Show」の公演が行われました。3部構成の内容で、1時間があつという間に過ぎました。

第1部のお芝居では、巻物を巡る忍者同士の攻防が描かれており、途中子ども達が悪者忍者をか弱いように思い、思わず助けてしまうような場面もありました。第2部の忍者修行コーナーでは、代表の子ども達が技を行うだけでなく、全員ができるようなバランス技も取り入れていただき、みんなが忍者になりきって、修行の動きに挑戦してました。第3部の和独楽の芸では、日本刀の刃先を鮮やかに進む独楽に「わあっ」と歓声を上げる子ども達がたくさんいました。



忍者のポーズをとる生徒

○舞台芸術感動体験事業

〔趣旨〕小中学生に対して、最高の舞台における質の高い芸術を鑑賞する機会を提供することで、調和のとれた情操の涵養と豊かな心の育成

を図ります。

〔実施報告(福岡県教育庁社会教育課)〕

10月23日、アクリオ福岡シンフォニーホールで九州交響楽団によるクラシックコンサートが行われ、県内小中学校16校約1,770名の児童生徒及び教職員が素晴らしい演奏を味わいました。

プログラムは、『歌劇「フィガロの結婚」序曲』や『歌劇「トゥーランドット」より、誰も寝てはならぬ』など児童生徒にもなじみのあるオペラの楽曲で構成されていきました。オーケストラの演奏だけでなく、指揮者の中井章徳氏から楽器やその音色、作曲家について解説していただくことで、クラシックの曲にも親しみをもって聴くことができました。また、福岡県出身のオペラ歌手である青柳素晴氏にテノール・ソロを披露していただきました。

児童生徒代表による指揮者体験では、指揮に合わせてオーケストラの演奏が速くなる様子や、音が大きくなる様子に、聴いている子どもたちも興味を持ったようでした。感想には「闘牛士の音楽は、いさましく実際に牛とたたかっている感じがした」「CDで聴くよりも迫力があつた」などがあり、間近で聴くオーケストラの演奏で、多くの子ども達が音楽に興味を持つたようでした。



代表生徒による指揮者体験

県の事業

○ふくおか県民文化祭「芸術体験講座」

〔趣旨〕児童生徒に様々な伝統文化や芸術文化

を体験させることを通して、豊かな人間性と多様な個性の育成を図ります。

〔実施報告(小竹町立小竹南小学校)〕

11月8日、「九州打楽器合奏団」の方3名による打楽器の体験講座が実施されました。まず、2台のマリンバを使って「ギヤロップ」「ふるさと」など児童になじみのある曲を披露していただきました。児童は目の前で繰り広げられるプロの演奏に目を輝かせながら聴き入っており、その美しい音色と深い響きに圧倒されていました。その後、片手で2本のマレットを使った和音の響きや、マレットの材質による音色の違いなどを教えていただきました。マレットが代わるだけで、音色が変わる様子に、子どもとても驚いていました。

次に、全校児童157名が3つのパートに分かれ、小太鼓、鍵盤ハーモニカ、鉄琴など音楽室にある楽器の美しい音の出し方、「ミッキーマウスマーチ」のリズムとメロディを教えていただき、それぞれのパート練習を行いました。最後は、全校児童で「ミッキーマウスマーチ」の合奏を行いました。

30分間練習しただけでしたが、講師の方が、それぞれのパートを熱心に指導してくださったおかげで、とてもすばらしい合奏ができました。全員で創りあげた一曲に、子ども達もとても感動した様子で、満足感のある豊かな体験となりました。



全校児童 157 名で合奏する様子

「これからの理科教育がめざすもの」

小郡市立小郡中学校
教諭 福田 勝則



○はじめに
教育に携わって35年が経ちました。以前から理科を分かりやすく教えるために工夫したらよいかを考えてきました。そのために、どんな教材を使うのか、生徒の興味・関心を促す導入法や、展開の工夫。また、グループ交流のやり方、さらには振り返りにより学習を定着させるにはどうしたらいいか。そこで、課題解決学習の充実や今では「主体的学び」「対話的学び」「深い学び」を具現化するにはどうあるべきかを、試行錯誤で考えては修正をくり返し今に至っています。

大学時代は地質学専攻で、特に花こう岩（Granite）の形成過程について朝倉郡杷木町をフィールドとして研究しましたが、平成29年の九州北部豪雨で地形が変わるぐらいの被害がありました。想定外の雨量だったこともあり、里山さえも植林したことが原因の一つとも言われています。大量のエネルギーと資源を消費し、生産性を上げ、科学技術の進歩と発展により人類は豊かな生活ができるようになってきました。しかし、一方で資源の枯渇、エネルギーの危機、自然破壊、地球温暖化、種の絶滅などの問題も浮かび上がっています。そこでめざす「理科教育」とは何か。それは、破壊の上に成り立った進歩だけの科学（ハードパス）ではなく、循環型社会の実現をめざす科学（ソフトパス）、いいかえれば、昔は当たり前だった自然と共存する文化や技術を取り戻し、次世代へつなぐ教育をしなければならないと感じています。さらに、科学の進歩とともに「私たちは今、

地球でどう生きるのか」「地球市民としての意識をどう培うのか」という視点に立った教育をすすめる必要があります。

○「物理」「化学」「生物」「地学」などの枠にとらわれずに人間形成の理科教育

例えば、酸・アルカリの単元での実践をご紹介します。身近な食材であるコンニャクが「酸・アルカリの概念を利用して昔からつくられてきた」という日本人の知恵を知ること、をねらいとして授業しました。植物の灰から抽出させた灰汁を利用して、コンニャクを凝固させているのですが、「灰汁を入れるのと、なぜ固まったのか」という疑問から生徒自ら課題を設定できるように導入します。次に班を現代コースと昔コースに分け、水溶液の性質を違う方法で探ります。疑問を説明するため、灰汁の液性を調べることに、灰汁の代用品を見つけていることを目標とします。ひかしコースでは、自ら灰汁を作る体験を設定し、現代コースでは、数種類の水溶液の液性をpH試験紙で調べます。次にグループ合同で灰汁の液性と同一液体を見つけて出し、「アルカリ性」という液性がコンニャクを凝固させる」という根拠を伴った仮説へと導きます。最後に、仮説の検証実験を行い、結果をまとめ自分の意見や考えを交流し、先人の知恵に感銘させるという授業です。灰汁の特性を生かし、コンニャク以外にも石けんの代用や肥料、染料など古くから使われてき



灰汁づくり

ました。コンニャク芋には劇物であるシユウ酸力リウムが入っています。そのままでは食べることはできない芋を食用にする技術や、その伝統を守ってきた地域の人々の思いなども一緒に学習します。酸・アルカリは化学分野ですが、生物分野や、社会の地理・歴史的分野、道徳や人権学習など幅広く関連性があります。科学知識が中心に歩みだす生活と結びついた教育を超えた「生きていくための力」が大切と感じています。

○終わりに

指導要領には「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の三本柱を育成することが求められていますが、今回の指導要領改訂の中で「人間性」という資質・能力に特に期待しています。身につけた「科学」を何のためにどう生かすのか、大切なことだと思います。言葉を変えれば「確かな人権感覚」を基盤に、よりよい社会を共に築くため、科学的に判断、行動できる子どもを育成をめざしたいと思っています。



・身近なものが科学の性質を利用して作られていることに驚きました。昔からの伝統が今でも私たちの生活に生かされていることがすごいと思ったり、後生にも引き継ぐ必要があると思った。
・そのままでは食べることができないコンニャクいもを、灰汁という食べられないものでおいしいコンニャクができるのは日本の先人すごすぎ。
・現代は科学技術が進歩して便利になっているけど、昔から続く伝統が伝わることはすごいと思った。

生徒の感想（抜粋）

ふくおか教育マイスター（令和元年、2年度）

福岡県立宗像高等学校

教諭 羽生 禎伸



私は電気物理部という部活動の顧問をしていて、自律型サッカーロボットの製作や、物理の研究活動に取り組む生徒たちの指導をしています。こういった探究活動に取り組んでいる生徒たちは、いつも教科書の範囲を超えた問題の解決に取り組んでいて、「指導をする」と言っても、私には一緒に勉強することくらいしかできません。しかし、教科指導をする上でとてもためになることが度々あるので、今回はその紹介をします。

少し前の話ですが、新しく手に入れた超音波センサーがうまく作動しないという相談を生徒が持ち込んできたことがあります。これを調べていく途中で「インピーダンスマッチング」という言葉に行き当たりました。これは、電子工学の基礎を学んだ人にはおなじみの概念だそうですが、高校物理の教科書にはもちろん載っていません。ところが、それまでに何度も解いたことのある例題が、この「インピーダンスマッチング」をモチーフにしたものだったというこ

とをその時初めて知りました。これをきっかけに「数学的な処理だけが極端に難しい変な問題」だと思い込んでいたものが、「身近なオーディオなどを例に挙げて説明できる面白い問題」に変わっていききました。例題の背景が分かっただけで授業そのものが変わってしまったのです。

こういった、授業で扱う問題の背景とか、題材を学ぶ意義などは、知識として得ることが難しいので、多くの場合「試験に出るから」とか「教科書にあるから」という動機づけで生徒に提示してしまいがちではないでしょうか。しかし、それでは面白い授業にはなりません。扱う題材の背景や、学ぶ意義を踏まえて授業を作るのがとても大切で、このような知識や理解を得る機会を教師が意識して持つことが望まれます。そういった機会として私が期待しているのが、「総合的な探究



個人用天球儀を使った中学理科の授業

の時間」と「職員間の議論」です。

先に例を出したように、探究活動に取り組む生徒の指導に関わるほどに、授業に厚みをもたらす話題や視点が蓄えられていくという実感があります。私の勤務校では数年前から全生徒を対象に探究活動が実施されていますが、すでに授業に役立つ視点を生徒の研究からもらっています。一方、もっと手軽でおすすめる方法が職員間の議論です。私自身も知識に乏しかった頃には、同僚の先輩方に疑問を投げかけて一緒に議論をしました。相手が見つからないときは、当時最先端だったパソコン通信で議論の相手を探したものです。そういった議論が日常的に行われるようになれば、授業がどんどん変わっていきます。特に若い先生方には教科の指導内容を話題にして、大いに盛り上がって欲しいと願っています。



電気物理部（文化祭にて）

「自分の人生を何に使うか」探究するドリカムプラン

福岡県立城南高等学校



はじめに

令和元年11月4日号の雑誌「AERA(アエラ)」の「AOと推薦に強い高校」特集に城南高校が紹介されました。その記事には「生徒自身が学内外での様々な体験を通して10年後、20年後の自分の姿を思い描き、進みたい分野と行きたい大学・学部を選ぼうというのがドリカムプラン。AO入試と重なる理念を20年前以上から取り入れ、実践してきたことが結実している。」と書かれていました。

本校でドリカムプランを開始した平成6年から、今年で26年目になります。「教師主導の進路指導から生徒主体の進路学習へ」キャリア教育の先進事例として全国的な注目を浴びています。

城南高校の3年間には、随所に進路探しのきっかけとなる仕掛けが組み込まれています。26年の間、いくつもの企画が多面的に同時進行で進み、それらは改善され続けています。

その城南高校の進路探しの仕掛けの総称が「ドリカムプラン」です。

日々の授業を始めとして、何が自分の進路探しの端緒となるかはわからないため、進路探しの仕掛け「ドリカムプラン」とは、城南高校の教育活動全体と言えます。

1 具体的な取組

毎年改善され変化し続けている企画の中で、現在の城南高校を特徴づける取組を挙げるとすれば、ESD(持続可能な開発のための教育)課題研究、SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)事業、即興型英語イベントの3点です。ESD課題研究は2年生全員が文理融合の5人前後のグループ80班に分かれて、自分たちの興味関心疑問を種として、問いと仮説を立て、検証実験やフィールドワークを行い、その考察を論文とポスターにまとめ発表する課題研究です。1年生の総合的な探究の時間は、ESD課題研究のための準備期間として、クリティカルシンキング、問いの立て方、ロジカルライティング等について学ぶように計画されています。今年度で5年目になる取組です。



海洋生物観察実習

SSHの指定は2期5年目、通算で10年目です。理数コースの特徴的な科目「理数ゼミ」での海洋生物観察実習や九州大学エネルギー科学科との連携協力で実施している先端技術体験講座等での研究をそれぞれに課題研究としてまとめ、3年次には英語でのポスター発表にもチャ

レンジします。

即興型英語ディベートは6年目になる取組で、1、2年生全員が即興英語ディベートを2年間かけて経験します。英語の授業、定期考査にも組み込まれ、PDA協会の御指導もいただきながら、2年生の年度末には各クラスを勝ち上がってきたチームによる決勝戦があります。また希望者が

毎夏の全国合宿にも参加し、授業の部で世界大会出場を果たしています。

この3点の他にも、2年生の東京つく



即興型英語ディベート

ばドリカム研修型修学旅行も特徴的です。生徒達がグループに分かれて、自分たちの興味ある企業を訪問するプログラムが組まれており、同窓会の御協力あつての企画となっています。

また、生徒達が選択し受講する校内企画としてジョイントセミナー、学問探究講座、東京大学金曜特別講座、じょうなんE.P.S.、韓国研修、ESDセミナー等があります。

一方で1年次から積極的に校外のイベントにも参加することを奨励しています。

校外のイベントで代表的なものは「知の創造

塾」「次世代型リーダー養成講座」「九州大学未来創世科学者育成プロジェクト」「志望大学のオープンキャンパス」等です。

外部のポスター発表会への出品も奨励され、その受賞歴も多いです。

これらの校外の経験で感じたこと考えたことを書くドリカムブックは進路意識形成のプロセスの記録です。

2 今後の課題

これだけの事をやってきた3年間だから生徒達はAO推薦入試にも向き合えます。生徒達は城南高校で様々な情報に出会い、選択し、体験して、自分の進むべき道を試行錯誤し探索していきます。

生徒・職員ともに例年の企画を型通り受身でこなすのではなく、常に新しい物事にチャレンジする気概と実行力を持ち続けることこそ本校の課題です。

おわりに

城南高校では、全ての教育活動が進路選択のきっかけとなるよう意識して企画されています。



ドリカムブック



ESD課題研究発表会

「自分の人生を何に使うか」SSH講演会で講師を務めた卒業生の言葉です。城南高校のディプロマポリシーでもあります。

「自分の人生を何に使うか」3年間かけて探究する、それがドリカムプランです。

主体的によりよい生活を創り出す子供を育てる特別活動の推進

義務教育課

1 本重点課題研究の概要

(1) 重点課題設定の背景と目標

複雑で予測困難な社会の到来に当たって、他者と共に生き、適切な判断や意思決定に基づき、主体的に社会参画することが強く求められています。

そのような中、学習指導要領が改訂され、特別活動では、学級や学校の課題を見いだし、よりよく解決するため話し合っ合意形成することの重要性が明確に示されました。

しかし、本県の児童生徒は、平成二十八年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果から、学級で話し合っ合意形成などを決めること、話し合っ折り合いをつけることなどに課題が見られました。

そこで、本重点課題研究では、特別活動の特質を踏まえ、集団や社会の主体的な形成者として必要な資質・能力を育成するための授業づくりの在り方と推進体制の整備について研究し、その成果を県下に広く普及することを目指しました。

(2) 研究の内容

- ①特別活動の本質を踏まえた学級活動の授業づくり
- ②全校で特別活動を推進するための推進体制の整備

2 研究指定・委嘱校の実践

(1) 筑後市立西牟田小学校の研究

●研究主題

主体的によりよい生活を拓く子供を育てる特別活動の推進

―解決へのストーリーをつむぐ学級活動を通して―

① 研究の概要と実際

西牟田小学校では、主体的によりよい生活を拓く子供を育てるために、特別活動の本質を踏まえた学級活動の授業づくり、全校で特別活動を推進するための体制整備に取り組みました。

○ 特別活動の本質を踏まえた学級活動の授業づくり

小学校六年間を通して、系統的に資質・能力を積み上げることでできるように、各発達の段階で育成したい資質・能力に係る評価規準を設定しました。



資料1 学級活動の学び方 (全学級掲示)

また、児童による自主的・実践的な活動の実現に向けて、資料1のような学習過程を設定し、全学級に掲示して共有しました。

さらに、学級活動における課題解決に向けた一連の学習過程を「解決へのストーリー」とし、各活動における教師の支援の在り方について、研究を深めました。

切実な問題意識をもたせるためには、これから先の在りたい自分や集団と現在を比較して、その差を実感させること、次の実践へとつなげるためには、振り返りを重視して手立てを講じることが重要であることが明らかになりました。

○ 特別活動の推進に向けた体制整備

重点目標達成に向けて、「つながり力」「生活力」「学び力」のそれぞれの育成を目指す三部会を組織し、特別活動の推進を目指す研究推進委員会を関連させることで、特別活動の充実を柱とした推進体制の整備に取り組ましました。



合意形成を図る児童の様子

また、福岡教育大学教職大学院、脇田哲郎教授監修の「学級会プランニングシート」(児童の思いや願いを実現するための授業構想をかき込むシート)をもとに、授業づくりに係る研修を行いました。これにより、全体を見通した協働的な授業づくりが可能になりました。

② 研究の成果

全国学力・学習状況調査における児童質問紙の結果等からも、目指す子供像につながる効果が見られました。子供の社会的スキルに係るアンケートからも仲間づくりについての数値が上がり、人間関係形成への効果が見られました。特別活動の充実により、学級経営の充実や自尊感情の向上等につながることができました。

● (2) 行橋市立今元中学校の研究主題

主体的によりよい生活を創り出す生徒を育てる特別活動

—考えを構造化して比べ合いつなぎ合う、新たな価値を生み出す話し合い活動を通して—

① 研究の概要と実際

今元中学校では、主体的によりよい生活を創り出す生徒を育てるために、考えを構造化して比べ合いつなぎ合う、新たな価値を生み出す話し合い活動を設定した授業づくり、全校で特別活動を推進するための体制整備について取り組みました。

○ 特別活動の本質を踏まえた学級活動の授業づくり

学級活動を通して育てる資質・能力の明確化・重点化に向けて、学級活動(1)(2)(3)の各活動における評価規準を作成した上で、各活動

段階における評価方法を整理し、全職員で共有しました。三つの柱に基づいた資質・能力が、相互に関わり合っていて、その関わり合いに留意して育成を目指すことが重要であることが明らかとなりました。

具体的な授業づくりにおいては、生徒の切実感を重視した手立て等について研究を深めました。

議題については、「議題発見シート」を用意し、いつでも話し合いたいことを提案できるようにしました。収集した議題は、「議題選定ボード」を活用して、話し合いの必要性等を計画委員会で吟味して選定するようにしました。

実際の話し合いでは、折り合いを付けて合意形成を図ることができるように、資料2の「決め方カード」を活用しました。これにより、合意形成の方向性を見いだすことができるようになりました。

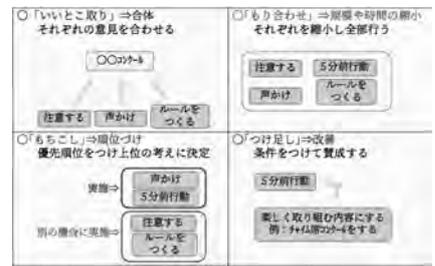
こうした生徒の切実感に留意した手立てや支援により、課題を自分事として捉え、主体的に活動に取り組む姿が見られるようになりました。

○ 特別活動の推進に向けた体制整備

特別活動の指導に当たっては、カリキュラ



全校での話し合いの様子



資料2 決め方カード

ム・マネジメントの観点に立ち、各教科、道徳科、総合的な学習の時間などの指導との関連を図った資質・能力の育成が大切です。

今元中学校では、「人間関係形成」「自己実現」「社会参画」の三つの視点から、特別活動と道徳科、総合的な学習の時間をつなぎ、全体計画・年間指導計画を作成し、実践に取り組みました。こうした取組が、学年間・学級間の連携、共通理解を図ることにつながりました。

② 研究の成果

全国学力・学習状況調査における生徒質問紙の結果によると「話し合う活動の効果の実感」に係る項目で向上が見られました。生徒の切実感に重点を置いて取り組んだことにより、課題を自分事として捉え、話し合いの意義を実感する生徒が増えたと考えられます。また、推進体制の整備等により、全教職員が一体となって特別活動の推進に取り組むことができ、生徒の資質・能力の育成につながることができたことも大きな成果の一つです。

3 三年間の実践を終えて

学校は人と人が関わり合う一つの社会です。児童生徒は、特別活動を通して多様な他者と関わり合っておりよく生きようとすることを学びます。また、特別活動は、学校における様々な集団活動や体験活動を通して、児童生徒の人間形成を図ることを特質としており、教育活動全体において極めて大きな役割を担うものです。西牟田小学校、今元中学校では、こうした特別活動の意義や役割を踏まえて、貴重な研究・実践に取り組んでいます。

今後、本研究の成果が県下に広がり、特別活動の推進によって、児童生徒に集団や社会の主体的な形成者として必要な資質・能力を育成することができることを期待しています。

ICTを効果的に活用した授業改善

義務教育課

1 本重点課題研究の概要

(1) 重点課題設定の背景と目標

AI等の技術革新が進んでいく新たな時代においては、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指す、他者と協働しながら新たな価値を創造できる資質・能力の育成が求められています。また子供の多様化に正面から向き合い、「公正に個別最適化された学び」を進めていくことが重要となっています。この教育を実現する上では、ICT環境を基盤として、それらを活用した指導方法や評価などの在り方を考えていくことが大切です。

しかし、本県の平成27年度教育課程実施状況調査では、校種別、教科別でみるとICTの指導の実態に格差が見られました。また、近年の教育の情報化の実態等に関する調査結果においては、本県教師のICT活用指導力は全国平均を下回っています。

そこで、本重点課題研究では、ICTを効果的に活用した指導方法の開発・評価の在り方やICT活用を推進する体制の在り方を研究し、その成果を県下に広く普及することを目的としました。

(2) 研究の内容

①各教科等の目標を達成するための、ICTを活用した効果的な指導方法の開発と評価

②ICT推進委員会による組織運営や、教員研修の在り方

2 研究指定・委嘱校の実践

(1) うきは市立千年小学校の研究
研究主題

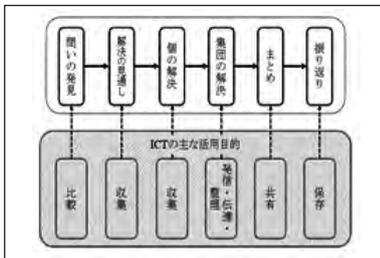
情報活用能力を身に付けた子どももの育成
—教科等、プログラミング学習、情報モラル学習におけるICTの活用を通して—

① 研究の概要と実際

平成26年度から全校内無線LANなどのICT環境、タブレット端末などを計画的に整備してきた千年小学校では、学習の基盤として位置付けられた情報活用能力の育成のために学習活動におけるICT活用の在り方について研究を進めていきました。

○ 学びの姿ごとのICT活用の整理

教科等においては下図のように学習過程ごとにICTの活用目的について整理しました。同様にプログラミング学習や情



報モラル学習においても活用の姿を具体的に整理しました。

○ 学習活動における教材化の工夫

これまでの先行研究を振り返り、ICTを活用した実践から、学習効果が高かったと考えられるものや特徴的な活用方法について、どのような機能をどのように使ったのかなどを整理したアイデア集を作成しました。その結果どの職員もそのアイデア集を基にICT活用を日常的に行うことができるようになりました。さらに、その日常の積み重ねから、教科の本質、学習活動の目的、協働的な学習の視点からICT活用を考え、より効果的な実践へとつなげていきました。

○ 研究の組織体制の整備

本研究の取組を組織的に行うため、図のように全職員を「ICT推進」「情報モラル推進」「プログラミング教育推進」の三委員会が組織しました。これにより、先生方の役割分担が明確となり、学校全体で研究を進められました。さらにうきは市教育センターと連携し、ハードウェアのメンテナンス、ソフト等の導入を行いました。

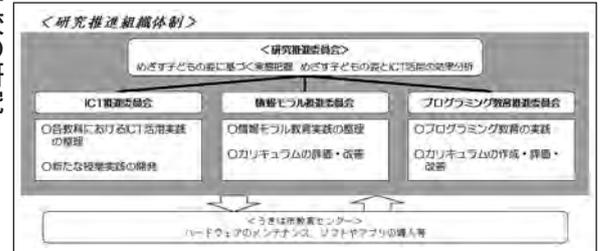
② 研究の成果

職員へのアンケートや、児童の自己評価及び振り返りから、教科等、プログラミング学習、情報モラル学習においてICTを活用すること

は「収集」「比較」「整理」「発信」「伝達」「保存」「共有」という情報活用能力の各要素の育成に効果的であることが分かりました。また、研究推進にあたっては、全職員で授業でのICT活用のアイデアの交流や共有を行ったことがICTを活用した授業改善には有効であることが分かりました。今後は本研究成果に加えてICT機器の操作の習熟にも取り組み、より質の高いICTを活用した授業に取り組みます。

●(2) 那珂川市立那珂川中学校の研究
研究主題

思考力・判断力を培い、主体的に表現できる生徒の育成
— ICTを活用し、「問い」を追究する授業を通して —



① 研究の概要と実際

那珂川市立那珂川中学校では将来の子供たちの生活に必要な不可欠となる情報活用能力の育成を目指し、「ICTを効果的に活用した指導方法の開発・評価」「ICTを効果的に活用するための推進体制の整備」という二つの視点から研究を進めていきました。

○ ICTを効果的に活用した指導方法の開発・評価

本研究では、ICTの活用を「教師による活用」と「生徒による活用」に整理して、「問いを追究し問題解決の過程を体験する指導方法の開

発に取り組みました。「教師による活用」では課題を明確につかませるための活用や、思考や理解を深めるための活用に重点を置き、教材提示や交流の場面における効果的なICT活用を行いました。「生徒による活用」では文章や図表にまとめる作業などにおいてICTを活用することで、生徒自身が構築した考えを表現する場面や、問いの答えからさらに新たな課題をもたせる場面において効果的なICT活用を行いました。



ICTを活用して教材提示する教師



ICTを活用して考えをつくる生徒

○ ICTを効果的に活用するための推進体制の整備

本研究を組織的に進めるために、下図のように研究組織をつくりました。この中で特に中心となったのが研究推進委員会です。週1回の研究推進委員会を設定し、研究構想やICT活用について協議をしました。そのまとは校内研究便りとして発行しました。またメンター・メンティ制を導入し、経験のある研究主任が、若手教員をメンティとして研究の進め方を学ばせました。このメンティがリーダーシップをとる中で、校内研修などを重ねることができました。

② 研究の成果

生徒の自己評価や教師アンケートの経年比較などから、ICTを活用して問題解決の過程を体験することは、生徒の思考力・判断力の育成

に関して効果的であることが分かりました。特にICTが思考ツールとして機能し、情報の分析や比較、意見の共有が容易になることよって判断する力を培うことができ

ました。また、ICT支援員も含めて全職員で研修を進めることで、組織的に校内研修や情報交換を行うことができました。さらに、那珂川市教育委員会と連携し、ICT環境の整備をしたことが、教師や生徒のICT活用の機会を増やすことにもつながりました。今後はICTを活用した授業がより行えるように、機器操作の習熟などを図っていきたくと考えています。

3 3年間の実践を終えて

各市町村教育委員会のリーダーシップの下、各学校がICTを活用した授業改善の研究を行ってきたことは、これからの時代に求められる資質・能力を育成する上で有意義な研究です。今後、本研究の成果が県下に広がり、ICTを活用した質の高い授業によって、子供の多様化に正面から向き合い、「公正に個別最適化された学び」を実現することを期待しています。



平成29・30・令和元年度福岡県重点課題研究指定・委嘱事業研究報告

実生活や実社会で実践する力を育成する「健康教育」

体育スポーツ健康課

1 本重点課題設定の背景と目標

近年、子供たちを取り巻く社会環境や生活環境が大きく変化している中、子供たちが様々な健康情報から必要な情報を自ら収集するとともに、正しく選択し、適切な意思決定や行動選択を行う基礎となる資質・能力を育成することが喫緊の課題となっています。この教育課題に対して実践的な研究を推進する学校を指定し、その成果を県内に広く普及・啓発することを目的に、「児童が、実生活や実社会で健康の保持増進のための実践する力を育成する健康教育の在り方を究明する」ことを目標に掲げ、研究を進めていきました。

2 本重点課題研究指定・委嘱校（地域）

芦屋町立山鹿小学校（芦屋町教育委員会）

川崎町立川崎東小学校（川崎町教育委員会）

3 研究の概要

(1)【視点1】実践する力につながる資質・能力を身に付ける授業づくりについて

学習指導要領において、各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力の三つの柱を

明確にし、偏りなく確実に育むこと、その資質・能力を育むための学習の質を一層高めることが示されました。本研究では、主に体育科を中心に、各授業で育成を目指す資質・能力を具体化し、その資質・能力を育むための学習過程の工夫等、効果的な指導方法について究明しました。

(2)【視点2】学校教育活動全体におけるカリキュラムの編成の工夫について

学校における健康に関する指導は、体育科の時間はもとより、各教科等においてもそれぞれの特性に応じて適切に行うことによつて一層の充実を図ることができます。育成を目指す資質・能力を指導のねらいとして明確に設定した上で、その実現に必要な教育内容等を選択し、各教科等の内容相互の関連を図りながら効果的な健康教育指導計画の作成を行いました。

(3)【視点3】学校における健康教育推進体制等の整備について

学校組織全体の中に、校内健康教育推進委

員会等を明確に位置付けました。全教職員がそれぞれの役割を分担し、学校全体で組織的かつ計画的に健康教育の推進を図りました。また、学校と家庭や地域の連携及び協働を図りました。

4 三年間の研究を終えて

三年間の実践的な研究を通して、健康に関する子供の意識を繋ぎながら各教科等を効果的に関連付けた教科横断的な健康教育指導計画の有効性や主体的・対話的で深い学びの過程を工夫した授業づくりの在り方、そして、何より全教職員の協働のもと学校全体で組織的かつ計画的に健康教育を推進することが最大限の効果を生むことが明らかになりました。

福岡県教育委員会としては、本研究の成果を県下に広く普及・啓発することにより、県内の子供たちに生涯を通じて健康で活力ある生活を送るための基礎が培われるようにしていきたいと考えています。

令和元年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果の概要について

体育スポーツ健康課

1 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

本調査は、平成20年度に始まった子供の体力向上を目指す教育調査です。

ここで、本調査の概要を説明します。

〔調査目的〕

○ 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力や運動習慣等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

○ 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策（各国公立学校においては取組）の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○ 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

〔調査対象〕

○ 小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の全児童

童

○ 中学校第2学年、義務教育学校後期課程第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年の全生徒

〔調査内容〕

○ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン（中学校は持久走でも可）、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）の8種目の実技に関する調査

○ 児童生徒質問紙調査（運動習慣、生活習慣等）、学校質問紙調査（子供の体力の向上に係る学校の取組等）、教育委員会質問紙調査（子供の体力の向上に係る施策等）

2 本県の子供の体力・運動能力、運動習慣等の現状について

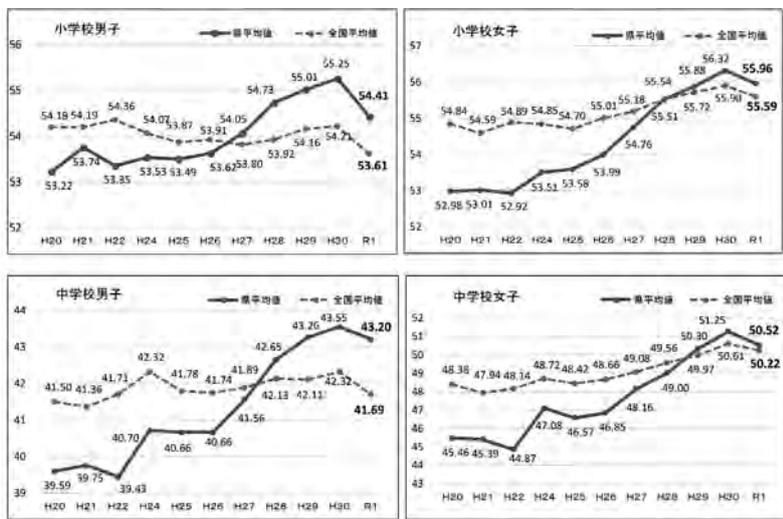
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果が、昨年12月にスポーツ庁から公表されました。

(1) 体力・運動能力調査結果（実技）について

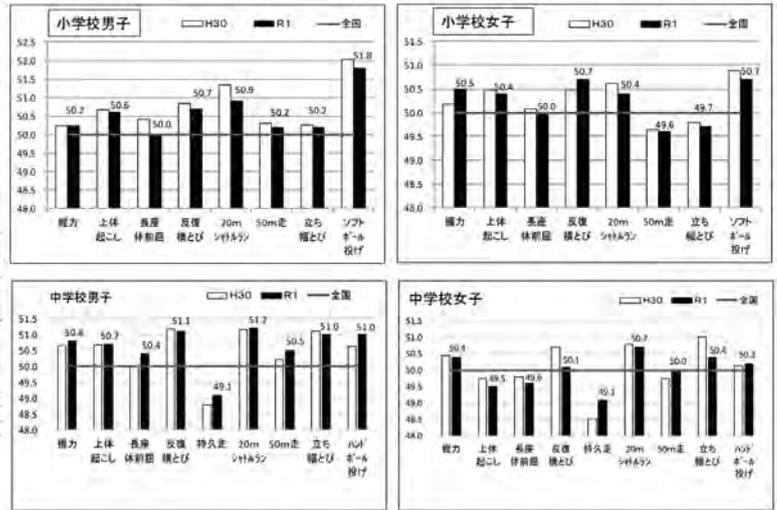
それでは、本県の子供の体力・運動能力の状況について、体力合計点や種目別T得点を全国の記録と比較して説明します。

まず、体力合計点については、小学校男女及

び中学校男女すべての区分において、県平均値が全国平均値を上回っています（グラフ①参照）。



グラフ①: 校種別男女の体力合計点平均値の推移 (政令市を含む)



グラフ②: 校種別男女のT得点の推移 (政令市を含む)

次に、種目別T得点の状況については、小学校で、男女の長座体前屈、女子の50m走と立ち幅とび以外の種目で全国平均値を上回っており、特に、反復横とびやソフトボール投げでは全国と比較して高い状況にあります。

また、中学校では、男女の持久走、女子の上体起こし、長座体前屈、50m走以外の種目で全国平均値を上回っており、特に、20mシャトルランは全国と比較して高い状況にあります(グラフ②参照)。

(2)児童生徒質問紙に関する調査結果について
1週間の総運動時間が、60分未満の割合においては、表①のように中学校男女が全国平均より

りも高いことがわかりました。また、運動することが「嫌い、やや嫌い」と回答した子供の割合においては、表②のように中学校女子が全国平均よりも高いなど、運動の習慣化、運動・スポーツに対する意識を改善していくことに課題があります。

3 各学校で今後取り組むべきことについて

ここまでお示ししてきたように、本県の子供の体力・運動能力は、これまでの10年間、各学校の体力向上に係る取組の継続と子供たちの頑張りによって改善してきました。

スポーツ庁から各市町村(学校組合)教育委員会及び各学校に配布された本調査の報告書には、分析の方法や「運動やスポーツが楽しい」と感じている児童生徒が多い学校の様々な取組事例が掲載されています。各学校においては、この報告書を活用し、実技調査結果、児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査結果の分析を行い、子供の体力・運動能力と運動習慣や生活習慣との相関関係、自校の課題、今後の取組の方

	小学校男子	小学校女子	中学校男子	中学校女子
全国	7.6%	13.0%	7.1%	19.4%
福岡県	7.1%	12.1%	8.3%	22.4%

表① 1週間の総運動時間60分未満の割合

	小学校男子	小学校女子	中学校男子	中学校女子
全国	6.6%	12.3%	10.6%	20.9%
福岡県	6.3%	12.2%	10.1%	21.0%

表② 運動することが「嫌い、やや嫌い」と回答した子供の割合

向性を明らかにしていくことが重要となります。そして、校長先生のリーダーシップの下、全教職員で次年度の体育・保健体育の授業改善の方途や「1校1取組」運動を位置付けた体力向上プラン等の内容について、共通理解を図り、子供の更なる体力向上へつながることを期待しています。

終わりに

今年度は、ラグビーワールドカップ2019で、日本中が大きな盛り上がりを見せました。今後、我が国では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や世界水泳等、多くの国際大会が開催されます。これらの大会開催を契機に、子供が生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくとともに、現在及び将来の体力向上を図る実践力の育成を図っていきましょう。

～ 語句の説明 ～
【体力合計点とは】
調査種目の8種目を、各種目、記録に応じて10点満点で点数化し、全8種目の点数を合計した点数(80点満点)です。
【T得点とは】
平均が50、標準偏差が10の正規分布に近似するように変換した値です。
偏差値やTスコアと呼ばれることもあります。

教育施設からの
事業だより

令和元年度福岡県体育研究所 取組について

福岡県体育研究所

1 専門研修（短期研修）講座

本講座は、学校体育・スポーツ及び健康教育等に関する研修を行うことにより、専門的知識や技能の習得、学習指導の工夫・改善や実践的指導力の向上を目的として開設しています。本年度は、全23講座を設定し、全国的に著名な先生方による新しい学習指導要領や現代的な教育課題に対応した講義及び実技・演習を交えた研修を行いました。本年度からの新設講座としては、昨年度、小学校で実施した授業参観から授業づくりを学ぶ講座を、中学校でも開設しました。また、特別支援学校の先生方を対象とした講座や、体育の実技研修に不安がある小学校の先生方を対象とした女性限定講座も新設しています。さらに、養護教諭の先生方のニーズにお応えできるよう、養護教諭対象の講座も2講座に増設しました。受講した先生方からは、「実践にすぐに役立つ」や「参加しやすかった」などの感想が多く寄せられ、大変好評を得ています。

来年度については、現在計画中ですが、皆さんから喜んでいただける講座を企画してい

ますので、是非御参加いただきたいと考えています。

○令和元年度専門研修（短期研修）講座一覧

対象	講座名	期日	講師
幼 小	運動的な遊び・運動遊び	7月24日(水)	岐阜大学 教授 春日 晃章
小 特	体づくり運動	7月26日(金)	筑波大学 准教授 三田部 勇
	体育の授業づくり	7月30日(火)	国士館大学 教授 細越 淳二
	女性限定！体育の授業づくり	7月31日(水)	
	ボール運動系(ゴール型)	8月27日(火)	立命館大学 教授 大友 智
	ボール運動系(ネット型+ベースボール型)	8月28日(水)	
陸上運動系	7月29日(月)	大阪体育大学 講師 陳 洋明	
小中特	表現リズム遊び・表現運動	6月26日(水)	日本女子体育大学 教授 宮本 乙女
中高特	体育の授業づくり	9月25日(水)	日本体育大学 教授 白旗 和也
	水泳運動	8月21日(水)	東海大学 教授 大越 正大
	(新講座)体育の授業づくり	10月 2日(水)	愛媛大学 教授 日野 克博
	体づくり運動	7月 2日(火)	東海大学 教授 大塚 隆
	球技	9月27日(金)	早稲田大学 准教授 吉永 武史
	体育理論	10月 3日(木)	日本体育大学 教授 岡出 美則
	体育の学習指導	10月 9日(水)	桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊
保健の学習指導	6月27日(木)	兵庫教育大学 教授 西岡 伸紀	
小中高特	特別支援ニーズのある子供からみた体育授業の進め方	8月 9日(金)	筑波大学 准教授 澤江 幸則
養護	体力向上の方策	8月 2日(金)	岩手大学 教授 清水 茂幸
	健康教育	10月 4日(金)	横浜国立大学 教授 物部 博文
	養護教諭の資質向上	7月25日(木)	国際医療福祉大学 教授 荒木田美香子
特	(新講座)養護教諭の資質向上	8月 9日(金)	九州大学病院眼科 医師 松津 治彦 まえだ整形外科 院長 前田 朗
	(新講座)特別支援学校における体育の授業づくり	8月21日(水)	東海大学 教授 内田 匡輔
教職員・一般	トレーニング指導と実践	10月23日(水)	フィジケイション 代表 泉 誠

※ ボール運動系(ネット型+ベースボール型) 8月28日(水)は荒天のため中止



救急処置のスキルアップ！
「養護教諭の資質向上」
まえだ整形外科
博多ひびろスポーツクリニック
院長 前田 朗氏



授業をみて学ぶ！
「体育の授業づくり(中・高)」
愛媛大学
教授 日野 克博氏



子供のニーズに対応する！
「特別支援学校における
体育の授業づくり」
東海大学
教授 内田 匡輔氏

2 専門研修（断続研修）講座

本県における学校体育・スポーツ及び健康教育等の充実・発展を図り、県・地域及び学校において活躍できる実践的かつ高度な専門的指導力を持つ人材の育成を目的として、「保健体育研修講座」及び「養護教諭研修講座」を開設しています。

いずれの講座も、短期間では習得困難な知識・技能を身に付けることができるように年間12回の研修を設定しています。小・中・高・特別支援学校の異校種間での研修は、それぞれの校種の学習指導だけでなく、12年間の系統性を学ぶ大変貴重な機会であり、全国でも他にない講座となっています。

（1）保健体育研修講座（平成16年度）

運動する楽しさを実感できる授業づくりや授業参観を通じた授業分析の方法、指導案の書き方や新学習指導要領の理解及び本県の体育・スポーツ行政等を理解する講座を設定し、今年度は小・中・高・特別支援学校から11名が受講しています。

本年度の講師は、桐蔭横浜大学教授佐藤



保健体育研修講座
桐蔭横浜大学
教授 佐藤 豊氏



保健体育研修講座
(模擬授業)



養護教諭研修講座
九州看護福祉大学
准教授 古賀 由紀子氏



養護教諭研修講座
臨床心理士
西村 修氏

豊氏、愛媛大学教授日野克博氏、福岡教育大学准教授本多壮太郎氏をお迎えし、授業づくりや授業評価方法の理解についての講義・演習のほか、各受講生の課題に基づいた研究構想や、代表者3名の検証授業に対して指導助言をいただきました。

（2）養護教諭研修講座（平成22年度）

養護教諭の職務である保健管理や保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動等の理解を深める講座を実施しています。特に多様化・複雑化する健康課題の解決に向けた外部機関や家庭、地域との連携・協議のあり方及び学校における救急処置に必要なフィジカルアセスメントについて実践的に学ぶとともに、学校保健活動を組織的に推進するマネジメント力を高める講座も設定しています。本年度は、小・中・高校の校種から6名の方が受講されています。受講者は講座の最終日に1年間の個人研究の発表を行い、九州看護福祉大学准教授の古賀由紀子氏より指導助言をいただきました。

3 調査研究事業

福岡県体育研究所では、平成29年度から「運動」を通じた鍛ほめプロジェクト」について、具体的実践及び調査研究を実施してきました。本年度は、その最終年度となります。

この調査研究については、本誌の特集欄に掲載していますので、御覧ください。また、3年間の最終報告については、去る2月14日に福岡県立スポーツ科学情報センター（アクシオン福岡）で開催した「福岡県体育・スポーツ研修報告会」で発表するとともに、年度末にリーフレットを作成し、各学校及び関係機関に配付する予定です。

4 支援事業

学校体育・スポーツ活動、学校保健に関する様々な相談に指導主事が対応します。是非、御活用ください。具体例は次の通りです。

- 指導主事の派遣（校内研修等）
- 体育科、保健体育科の指導計画の作成に関すること
- 研究授業に関すること
- 特別活動、総合的な学習（探求）の時間における体育・健康教育に関すること
- 運動部活動に関すること
- 保健教育・保健室経営に関すること
- 研修会における講師の紹介

令和2年度 福岡県教育センター事業の紹介

福岡県教育センター

はじめに

平成29～30年度に策定された福岡県教職員育成指標、教員研修計画に基づき、教育センターでは、「福岡県教育大綱及び福岡県学校教育振興プランに基づき、本県の学校教育の目標を達成するため、各学校等が、社会の変化や子供、学校、地域等の実態に応じ、

本県の特徴を生かした教育活動を自律的に創造及び推進できるように研修・研究・支援を中心とした事業を実施する」ことを主な役割と位置付けました。

令和元年度は、「教職員一人一人の確実なキャリアアップ」と「教職員や学校等の自律的で主体性のある研修・研究」の実現のために、『福岡県の教育の未来を学校現場の先生方と共に創る』というスローガンの下、基

本研修を含む各研修、調査研究、学校支援等の事業を実施してきました。

1 教育センターの経営方針

令和2年度は、教育センター経営要綱に示している経営の基本方針や経営の重点に基づき、各事業を実施します。ここでは、その中から「経営の基本方針」と「経営の重点」を紹介します。

【経営の基本方針】

- (1) 教職員一人一人のキャリアステージや職務に応じた資質・能力を育成するために、福岡県教職員育成指標を踏まえた研修を体系的かつ効果的に企画及び実施します。
- (2) 現代的な教育の課題や本県学校教育における教育課題及び経営課題に応じた研究を各研究指定校と協働して行い、地域の研究推進の拠点を創造するとともに、研究成果の県内学校等への発信及び普及を図ります。
- (3) 本県の教育施策や教育課題に応じた教育資料や書籍の収集・活用の促進及び最新

の教育情報の発信並びにその他教育センターの教育資源を生かした学校等への支援を行います。

【経営の重点】

- 新しい研修体系に基づいた各研修等の円滑かつ効果的な実施
- 経営方針に基づいた事業の運営及び改善を図るための検証・改善サイクルの確立
- 教育情報等の発信を効果的に行う教育センターホームページの改編・更新
- 教育センター職員の力量向上を図る意図的・計画的な研修等の実施

2 令和2年度事業の紹介

教育センターでは、県の学校教育の充実・発展のため、各事業の効果的かつ効率的な実施を目指した改善・更新を図っているところです。

ここでは、令和2年度に向け、各事業の特長と主な改善点をお知らせします。

01 共創しよう! 教育の未来

Produce from 0 / Fukuoka Prefectural Education Center

【研修事業】

・基本研修

学校種やキャリアステージに応じた基礎的・基本的な資質・能力の確実な向上を目指し、研修内容や方法の見直しを図ります。また、教育センターホームページを活用したオンラインによる研修やICT機器の活用を推進します。

・専門研修（福岡教師塾）



引き続き教育以外の多様な分野のトップリーダーを講師に迎えます。また、令和元年度から実施している、受講者が主体的・対話的に学ぶ企画・運営研修の質を更に高め、幅広い視座や視点から学校経営に携わるリーダーに必要な資質・能力の育成を図ります。

・専門研修（ミドルリーダー養成講座）



引き続き職務や学校種等に応じた高い専門性とミドルリーダーに必要な資質・能力の向上を図ります。また、新たな講座を開設し、多様な学びが可能な6講座を実施しま

す。

・専門研修（キャリアアップ講座）



講座編成を大幅に見直し、各講座が対象とする「学校種」「キャリアステージ」「資質・能力」を更に焦点化しています。加えて、関係機関と連携した新たな講座を開設する予定です。また、講座案内の配布を早め、広報の充実に努めます。

・長期派遣研修

様々な教育分野の専門性を高め、学校及び地域等の研修や研究を推進できる教員を養成します。そのため、多様な分野の専門性をもつ教育センターの強みを生かした、教育センターならではの長期派遣研修を実施する予定です。

【研究事業】

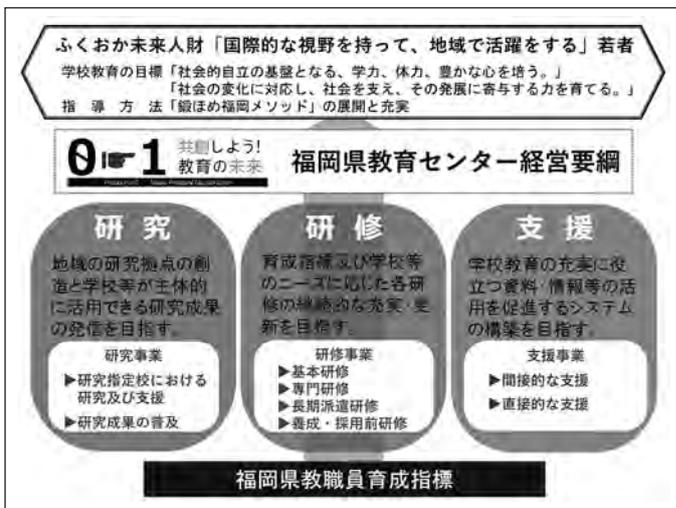
各地域の研究推進の拠点の創造を目指し、関係教育機関との連携を図りながら、県の教育課題や経営課題の解決に資する「実践的な研究」を行います。また、その研究成果を積極的に発信していきます。

【支援事業】

学校等の自律的で主体的な研修・研究の実

現を目指して令和元年度からスタートした「サポート・シリーズ」や「学習指導案データベース（登録数2300本以上）」の更なる充実を図ります。また、教育センターホームページを改善し、最新の教育資料や教育情報を積極的に発信していきます。

令和2年度も教育センターは変化し続けていきます。各研修へ是非御参加ください。また、教育センターが作成している成果物を積極的に御活用ください。



令和2年度 福岡県教育センター事業構想

お知らせ

体育スポーツ健康課

福岡県立久留米スポーツセンター
陸上競技場がリニューアルオープンします

■はじめに

久留米スポーツセンターは、昭和49年のインターハイ開催を契機に建設されました。

当該施設内に設置された陸上競技場は、陸上競技だけでなく、サッカーやラグビーなど、様々な大会が開催され、県南地域のスポーツ振興の中心的施設として多くの県民に利用されてきたところです。しかしながら、築40年以上が経過して施設の老朽化や機能不足があったことから、メインスタンド屋根の全面改修や、照明のLED化を行い、併せて、温水シャワー、多目的トイレ、授乳室等を設置しました。

また、ロッカールームを拡大して新たにオーブンロッカーを設置するとともに白板を設置し、ロッカールーム内でのミーティングを可能にするなど、サッカーやラグビー競技の利用にも配慮しました。

トラックも一新し、鮮やかなブルーに変更しました。

■改修工事概要

年齢や性別、障がいの有無に関わらず、より多くの県民がスポーツに親しむことを目的とし、以下のような改修工事を行いました。

- より「優しい」施設を目指して
- ・多目的トイレを設置
- ・障がい者用シャワーの設置
- ・段差の解消
- ・正面玄関の自動ドア化
- ・車いす席の設置
- ・2階に救護室、授乳室の新設
- より「快適」な施設を目指して
- ・トイレの洋式化
- ・温水シャワーの設置
- ・バックスタンド席の設置
- ・トラックの大規模改修
- ・メインスタンド観客席屋根の全面改修



トラックの色を茶色から
鮮やかなブルーに変更しました



屋根の大規模改修など、
メインスタンド棟もリニューアルしました



バックスタンドにベンチシートを
新設しました

問い合わせ先
〒810-0001

福岡市中央区天神1-4-1 10F
西日本新聞イベントサービス内
久留米スポーツセンター陸上競技場
リニューアルイベント事務局宛
TEL(委託業者電話番号)

教職員課

県立学校の臨時教員等登録制度のお知らせ

県立の高等学校及び特別支援学校の常勤講師、非常勤講師、養護教諭（期限付）、実習助手（期限付）、寄宿舎指導員（期限付）、寄宿舎指導員宿直代行員の希望者の登録を受け付けています。

資格：講師、養護教諭（期限付）については、登録を希望する種別、教科の教育職員免許状を有すること。

手続：教職員課県立学校係で配布している志願書に必要事項を記入し、写真貼付の上、同係に提出してください。

※志願書は福岡県のホームページからダウンロードすることができます。

与：常勤講師は経験に応じて月額19～30万円程度（別途各種手当、社会保険等有）です。非常勤講師は学校種別等により異なります。

問い合わせ先
福岡県教育庁教職員課県立学校係
TEL 092(643) 3893
FAX 092(643) 3896

教職員課

市町村立学校の臨時教員等登録制度のお知らせ

市町村立の小・中・義務教育・特別支援学校（政令市を除く。）の常勤講師、非常勤講師、養護教諭（期限付）、学校事務職員（期限付）、学校栄養職員（期限付）の希望者を登録しています。

資格：講師、養護教諭（期限付）については、登録を希望する種別、校種、教科の教育職員免許状を有すること。学校栄養職員については、栄養士免許証又は栄養教諭普通免許状を有すること。

手続：教職員課市町村立学校係、各教育事務所で配布している志願書に必要事項を記入し、写真貼付の上、希望する勤務地区を担当する教育事務所に提出してください。

※志願書は福岡県のホームページからダウンロードすることもできます。

与：常勤講師は経験に応じて月額19～30万円程度（別途各種手当、社会保険等有）です。非常勤講師は任用形態により異なります。

問い合わせ先	福岡県教育庁教職員課市町村立学校係
TEL	092(643) 3892
FAX	092(643) 3896
福岡教育事務所	
TEL	092(643) 0113
FAX	092(643) 0121
北九州教育事務所	
TEL	0949(25) 1202
FAX	0949(24) 3345
北筑後教育事務所	
TEL	0944(32) 3161
FAX	0944(32) 3040
南筑後教育事務所	
TEL	0944(53) 7342
FAX	0944(53) 7527
筑豊教育事務所	
TEL	0948(25) 1123
FAX	0948(25) 4948
京築教育事務所	
TEL	0979(83) 3604
FAX	0979(83) 3606

九州歴史資料館

企画展 「きゅうおにとタイムトラベル —大昔のくらしと国づくり—」

内容：歴史の学習をスタートとする小・中学生が、九州歴史資料館のマスケットキャラクタ―「きゅうおに」の案内で、時空を超えた旅に出かける企画展です。大昔の歴史の疑問を、県内出土資料を通して知ることが出来ます。

開催日：3月24日（火）～7月12日（日）

開催時間：9時30分～16時30分（入館は16時00分まで）

休館日：月曜日（ただし祝日・振替休日の場合は翌日）

観覧料：無料
開催地：福岡県小郡市 九州歴史資料館 第2・4展示室



きゅうおにポスター

問い合わせ先
九州歴史資料館

TEL 0942(75) 9501
FAX 0942(75) 7834

パネル展 「新九歴10年のポスター」

内 容：移転開館10周年を迎え、これまで開催してきた展覧会のポスターを展示する。

開催日：3月17日(火)～6月14日(日)

開催時間：9時30分～16時30分

(入館は16時00分まで)

休館日：月曜日(ただし祝日・振替休日の場合は翌日)

観覧料：無料

開催地：福岡県小郡市 九州歴史資料館 文化情報広場

問い合わせ先

九州歴史資料館

TEL 0942(75)9501

FAX 0942(75)7834

放送大学福岡学習センター

自宅で学べる「放送大学」

—大学院生・教養学部生 募集—

放送大学は、BS放送やインターネット(スマホ、タブレット等を含む)を通して学ぶ文部科学省・総務省所管の通信制の大学です。

【大学院・教養学部】

- ・特別支援学校教諭二種免許状や、専修免許状等上位免許取得に利用できます。
- ・心理や教育、福祉などの幅広い分野から、大学院は約80科目、教養学部は約300科目を学ぶことができます。
- ・学生は、自己学習のeラーニングサイト「放送大学自己学習サイト」を利用できます。

【2020年度第1学期学生募集期間】

・【第一回】令和元年11月26日(火)～令和2年2月29日(土)

・【第二回】令和2年3月1日(日)～令和2年3月17日(火)

※各学校には、令和2年3月に「2020年度教員免許状及び各種資格について(放送大学本部作成)」を配布しています。併せて、「2020年度教員のための放送大学活用の手引(教科・免許編データ版)」を放送大学福岡学習センターにおいて作成しました。いずれも、福岡学習センターのホームページに掲載しておりますのでご利用ください。

資料請求・問い合わせ先

放送大学福岡学習センター

〒816-0811 春日市春日公園6-1

(九州大学筑紫キャンパスE棟4・5階)

TEL 092(585)3033

FAX 092(585)3039



サイエンスラボくおか
福岡県青少年科学館



開館30周年記念特別展

■『ふしぎなふしぎなオートマタ展II』
『からくりおもちゃととびだす絵本』

〔期間〕 3月7日(土)～5月6日(水・振)

〔内容〕 オートマタって何?からくりおもちゃってどんなもの?ものが動く仕組みをからくりおもちゃととびだす絵本で体験しよう!アナログな動きを実際に見て動かして楽しもう。SNSで話題になった鈴木完吾氏の「書き時計」も必見です!

星空教室

■『春の大曲線』から星座をさがそう
『春の星座』



〔期 日〕 3月14日(土)

〔時 間〕 11時00分～12時30分

〔対 象〕 小学生以上

(幼児は保護者の付き添いで同席可)

〔参加費〕 100円

〔定 員〕 30名

〔受付開始〕 2月14日(金)

〔内 容〕 季節のおもな星や星座のさがし方をわかりやすく紹介します。また、プラネタリウムで星座探しの体験をすることができます。

科学工作教室

〔期 日〕 毎週日曜日・祝日

〔時 間〕 11時00分～12時00分、

14時00分～15時00分

〔対 象〕 どなたでも

〔参加費〕 100円

〔内 容〕 簡単な科学工作(スカイコプター、パステルプラ板ストラップなど)をします。



このマークのある教室や催しは、予約が必要です。実施日の1か月前の9時30分から電話または直接来館の上、先着順に受け付けます。

教室や催しに参加する場合、参加費のほかに入館料が必要です。ただし、土曜日は高校生以下の入館料は無料です。

てんぶぎょうりゆうぞう

天部形立像

(福岡市・福寿寺蔵)

(小田観音堂伝来)



広葉樹材 一木造 彫眼 像高二七・七cm
 総高三三・四cm 平安時代(十〜十一世紀)

小田観音堂は、博多湾の北西部、光明寺山とも称される、標高五〇m程の小高い丘の上に所在しています。眼下には海が広がっていて、すぐ近くには手に取るように、博多湾の東方から延びる海の中道の先端に取りついた、志賀島が見えています。ここは、博多湾と外海の境界に位置しているのです。かつて山の中には、奈良時代に開創されたと伝えられる、万歳山光明寺という寺院がありました。その光明寺の後裔が、またの名を光明寺観音堂ともいう、この観音堂です。堂内には今も、像高三三四・二cmを測る千手観音立像を中心とする、三軀の観音像が祀られています。

かつて観音像の脇や周りには、多くの朽ちた像を主としながら、ぎっしりと古仏が存在していました。いま九州歴史資料館で保管されているこの天部形立像も、その中であつた仏像のうちの二軀です。仏法を護る武の神らしく、横たわる邪鬼の上に、甲冑に身を固めて構えています。左腰部のゆたかに盛り上がった肉つき、側面観、背面観に見る重厚さと抑揚は、力強さと充実とを感じさせます。構造としては、足下の邪鬼までを含んで、九州で特徴的に多用される樟かと見られる、広葉樹の二材から彫り出していて、干割れ防止などのために内部を剝る内削も行っています。体型や構造は、平安時代前期の作例を思わせます。ただ、面部の肉つきをはじめ、平明な印象も目について、造像は平安時代後期の、十世紀末ないしは十一世紀に入ってからだと見られます。

なお、こめかみの逆立った髪や、寄った目を怒らせている様子、頬を長くたつぷりとした肉つきにあらわす様子などは、九州の平安時代前期の仏像の代表作の一つである、観世音寺の兜跋毘沙門天立像に通ずるものがあります。小田観音堂のこの天部形立像は、太宰府周辺地域で継続されていた仏造像の流れの中から生まれたものだと考えられます。古式な構造なども、当地域に根ざした造像活動の一傾向を示しているものでしょう。平安時代の福岡の仏像を考える上で、一つの鍵となる存在だと言つてよい作例です。